

愛媛新聞(9月23日)に掲載されました。

松山

パプアで保健活動支援 看護師木本さん「任務果たす」

日本赤十字社は松山赤十字病院の看護師木本涼さん(31)のパプアニューギニア



パプアニューギニアに派遣される松山赤十字病院の看護師木本涼さん(左)
—22日午後、松山市文京町

派遣を決め、22日に松山市文京町の同病院で出発式を行った。国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)パプアニューギニア事務所では事業管理や会計業務を支援するほか、地域の保健活動にも携わる予定。

木本さんは高校で語学に興味を持ち、フェアトレードの普及支援などを通し国際救援に関心を高めた。2017年から同病院で看護の力を磨き、日赤愛知医療センター名古屋第二病院で2年間、国際救護要員の資格取得へ研修を受けた。

出発式で西崎隆院長は「健康に留意して活躍してほしい」と激励。長谷部徳恵看護部長は「挑戦が実り多きものになるよう職員一同応援している」と花束を贈った。木本さんは「パプアニューギニアは地震や洪水、干ばつ、気候変動の影響に直面している。経験を生かし、しっかり任務を果たしたい」と述べた。

派遣はIFRCとパプアニューギニア赤十字社の協働事業。10月1日に現地入りし、来年3月に帰国する予定。
(尾崎麻貴)

掲載許可番号：d20251001 - 01